



# むくの木

No.4 7月号

## 学校教育目標

- [知] 進んでできる子・考える子
- [徳] 心豊かな子
- [体] たくましい子



## 体験を生活や生き方に繋げよう

校長 佐藤 貴広

6月は、様々な体験を通して学ぶ機会がありました。その中で特に、5年生の大貫海浜学園を振り返ります。5年生の集団宿泊活動ができたのは、実に4年ぶりでした。大貫海浜学園とは、川口市立の小学校が行う特別活動で、千葉県富津市にある川口市立大貫海浜学園という施設に宿泊するものです。本校は6月13日（火）から1泊2日の行程でした。出発前から雨の心配があり、副学園長先生のご配慮で、学園到着後すぐに、ミニミニハイキングと銘打ち、富津中央海岸から富津公園を散策しました。公園内の芝生の上で昼食をとり、バスで明治百年記念展望台まで移動。近代的なデザインの展望台を見るやいなや、子供たちは勢いよく展望台に上がり、潮の香りを感じながら東京湾を望みました。空はすっきりと晴れ渡り、横浜から木更津方面までぐるりと湾岸を見渡すことができました。学園に戻ると今度は浜辺に降りて、貝拾い。子供たちは、波打ち際に貝殻を見つけては、お目当ての貝かどうか目を輝かせ、まるで宝探しのような時を過ごしました。2日目は、同時に宿泊した前川小学校の皆さんと、学校紹介やレクで交流し、刺激を受けることができました。仲間とともに一緒に風呂に入ったり、同じ部屋で寝たりした生活は、多くの子供たちにとって初めての体験となり、強く心に残ったようです。押し入れの中から布団を取り出して、敷いたり畳んだりしたこと、食事を皆で準備したり片付けたりしたことなども、よい経験になったことでしょう。手にした布団が敷布団なのか掛け布団なのか。シーツやカバーはどうやって使えばいいのか。そういったことも子供たちには「問題」となりました。まさに生活上の「問題解決学習」です。大貫海浜学園では、細かなことにも、「気づき、考え、行動する」ことが求められました。1泊2日と短い時間ではありましたが、日常を離れ、新しい環境の中で過ごしたことは、子供たちにとってかけがえのない「学びの場」となったはずです。5年生に限らず、どの学年の子供たちにも、体験から学んだことを自身の生活や生き方に繋げ、生かして欲しいと思います。



1学期も残すところあと13日（授業日で）となりました。ご家庭では、お子さんと一緒に1学期を振り返り、「どんなことがわかったか」、「どんなことができるようになったか」について確認してみてください。そして、学んだことを生活の中で生かすことができれば、ぜひ、褒めて欲しいと思います。